

文化共同体理念からみた 東北アジアハイウェイの重要性

Importance of North East Asia
Highway Seen from Idea of
Cultural Community



韓国・精神文化研究所教授
李 瑞行氏

私は日本語がよくできませんので韓国語で発表致します。資料は日本語版を参考にして頂ければ幸いです。発表内容は仏教、儒教あるいは文化を中心とした文化共同体から見た国際ハイウェイの重要性を探索するところにその目的を起きました。どこまでも客観的な事実に忠実であるように努力を致しましたが、しかしながら本論がもともと150枚ほどの長い論文であるものを40枚から50枚ほどに要約したため皆様方に理解し難い点もあることと思います。

ヨーロッパのフランス革命以後に急成長した政治的民族主義イデオロギーの影響によって、東北アジアは侵略と反目すなわち日清・日露戦争、日本による韓半島の強制占領を経験し、共産主義世界の戦略による韓半島の分断問題がいまだ解決されずにいます。その間、世界は科学の発展と脱冷戦によって、ひとつの地球村時代を迎え、交流は自由にすることができ、世界を引ばっていくことができる理念と案が用意されておらず、相対主義理念と価値観を越えることができないまま、世界のいたる所において紛争が起こっている。旧ソ連が崩壊し、CISという独立国家共同体に再編成されたが不安と葛藤は依然として残っており、EC、北米、アジアなどがブロック化を試図しているが相互不信はまだ続いている状態です。

古今東西を問わず歴史上、宗教、哲学、科学の領域で人類の平和と幸福は絶え間なく追求されてきましたが今だに実現されていないわけです。究極的な理念と実践案が提示されない中で、宗教、哲学、科学などは分野別にはそれなりに部分的な結果も納めてきました。さる40年間、世界平和統一理念とその案が、韓国の生んだ文鮮明先生によって宗教、思想、経済、教育、政治、芸術、文化面など総合的な分野において推進されてきた事実を見のがしてはならないと思います。特に、第10回「科学の統一に関する国際会議」(ICUS)において、宗教、思想、文化、経済の統一運動として新しいひとつの統一世界、すなわち東西文明を総合した新しい太平洋文明を成し、人類の理想を実現することができる具体的案として「人類はひとつの家族ひとつの兄弟」という大命題のもと、実践案の一環として東西諸国を連結する国際ハイウェイの青写真が発表された事実は注目すべきことでもあります。

このような遠大なる構想である、韓国と日本・中国を経てユーラシア大陸を横断し、ロンドン、モスクワに至る国際高速道路建設案の中で、まず最初に韓・日・中の東洋3国の文化の同質性を、仏教と儒教の二つの側面を中心とした文化的交流を見ることによって、国際高速道路の妥当性と理念定立に協助しよう

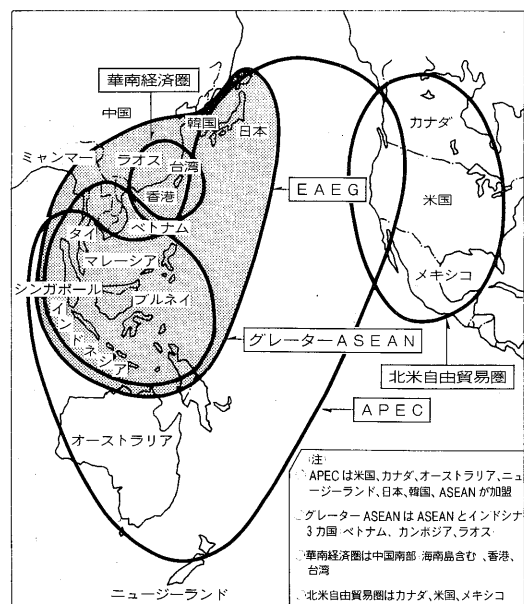
と思います。21世紀を目前とした今日の科学文明というものは時間の短縮をもたらし、韓国からアメリカまで行くのに2、3時間で行ける日がそれほど遠くないと思います。

科学文明が発達する前には韓国と日本の間の距離も非常に遠いものでありました。しかし今日では、釜山から福岡に来るのに飛行機で40分しかかかりません。飛行機の中で昼の食事を配っていたのですけれどもその食事が全部配り終る前に、すぐに福岡空港に下りますので準備して下さいというアナウンスが入ったわけです。私は弁当を受け取りはしたのですが、これを食べようか食べまいか考えながら笑いをこらえることができませんでした。私の横に座っていた人はのどが渇いて缶ビールを注文してもらったのはいいのですが飲もうか飲むまいか考えているうちにカバンの中に入れるのを見ました。

このように近い韓国と日本の間でありますけれども福岡空港についてから検査とか手続きを終えて福岡空港から出てくるまでにやはり40分の時間がかかりました。人間は不必要な制度、国境という制度の中で一生の大事な時間を無駄に過ごしているように感じました。東洋の3国は昔から同じ文化圏の中で生活してきたわけでありますから、私たちは遠い原始時代の人達と同じ感覚をもって現代を過ごしているかもしれません。89年度北京でアジア大会があった時にも私は北京に行って参りましたが韓国から北京に飛行機に乗ってゆく時間と北京についてから北京のホテルに着くのと時間が同じでありました。このようにわたしたちは不必要な国境というものを越える手続きの中でいらいらすることを皆さんも経験なさったのではないかと思います。

しかしヨーロッパにおいてはノービザの伝統というものをずいぶん以前からもっております。私たち韓日中の東洋3国というものは人種的にも同じ人種でありますし同じ背景があります。また思想的背景も似ていれば同じ文化の中で生活してきた3つの国であります。外的な環境といたしましてはこの韓日中の三カ国はひとつになって地球村時代を迎える準備ができています。しかしながら内的に見た時には文化的共同体理念というものが確立されておらず、こういった面倒くさい手続きを経なければならない不便な生活を強いられている状態であるわけであります。政治、経済、外交、宗教、民族、言語等を越えることのできる価値文化の形成ができていないがゆえに閉鎖された各国の文化圏内から各国を見ようとしているが故にこのような不便な生活を強いられている状態であるわけであります。

韓・日・中の東洋3国の関係は非常に密接であり、時代が流れるに従ってその交流は頻繁になり、影響を及ぼす主体的立場も変化をなしてきました。今日の問題は、過去にどの国がどの国に影響を与えたかにあるのではなく、仏教文化と儒教文化によって一つの文化共同体をなしてきたこの3国が、現在は軍事主義と冷戦イデオロギーによって状況が大きく変わり、同じ文化共同体とはいえないほど異質的な分化現象によって、国家と国家の間の断絶と競争が極度に深化しているというのが実情であります。これ以上文化の断絶と極端な競争のみをするわけにはいかないため、今日の世界は個人や国家を問わず、相互依存的関係を維持しなくては存在できないため、EC、NAFTA、ASEANのように有機的な関係下において地域ブロック化およびひとつの地域共同体を指向



アジア太平洋地域の主な経済圏構想

しています。

このような現象は19世紀の文化と伝統体制と理念によって持続的な対立と葛藤に対する大きな変化であるというほかに、互いの生き方を尊重する和解と協同の新たなる文化共同体理念と価値観出現の予告であることは間違いありません。このような時に一つの地球村世界をなすための統一理念と、これを実現するための多様なプロジェクトが推進されていることは幸いなことであります。まず、1983年、日韓トンネル研究会が発足したことは偶然なことではなく、時にかなった事業であることは間違いありません。国際ハイウェイは人類の理想を達成するための一つの方策であり、先見性の高い人類の期待でもあります。それゆえ、現実的な交通手段や経済的次元において重要であるばかりではなく、人類文化の共同目標でもある人類の愛と正義と世界平和を実現することができる文化理念と交流方向においても、その重要性が証明されてゆかなければならないと思います。

したがって今回の国際シンポジウムが日・韓・中の文化交流現況の歴史的な一考察によって、国際ハイウェイ、特に日韓トンネルの重要性をさらに認識する契機とならんことを願うものであります。最後に各国の文化と理念を越えた政治、経済、文化的共同体の価値観をトンネルの技術に先立って成立する必要があることを提言しつつ、これで終わらせていただきます。

ic ISSEI CREATE CO.,LTD.

—社会の美化に奉仕する—

株式会社 一成クリエイト

■トータルクリーニング ■養生工事 ■ガラスコーティング ■イシノール施工
【主な業務内容】 (長期撥水防汚剤)

〈本 社〉 〒168 東京都杉並区宮前1-7-7 松木ビル4F
TEL 03 (5370) 3171 (代表) FAX 03 (5370) 3175
〈大阪営業所〉 〒562 大阪府箕面市瀬川4-7-10 勢州テラスハウス3号
TEL 0727 (23) 2412 FAX 0727 (23) 2413
〈札幌FC〉 〒001 札幌市北区新琴似10条3-5-6
TEL 011 (765) 3801 FAX 011 (765) 3871